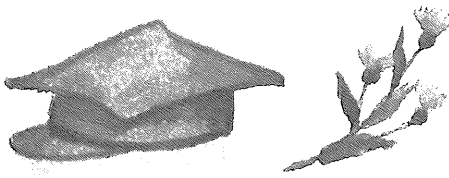


## 推薦入学の増大と多様化



名古屋大学教育学部教授

佐々木 享

## 『大学入学者選抜実態調査』

文部省が推薦入学制度を公認したのは1967（昭和42）年度からである。この方式を学力検査による選抜と併用する大学は、当初はもっぱら私立大学で、国公立大学はほんの一部の大学・学部には過ぎなかった。しかし70年代から80年代になると様相が変わりはじめた。

文部省は、1970（昭和45）年頃から、事実上いわば学力検査一点ばりだった方針を転換して、大学入学者選抜方法の多様化を積極的に推奨するようになり、推薦入学はその方法の一環として位置づけられた。しかし、長い間学力検査による方法だけに馴じてきた大学側は、文部省の方針が変わったからといって、急に方向転換するには至らなかった。文部省は、入学者選抜方法の多様化を促進するために、入試の改革に取り組もうとする国立大学には別枠でそのための研究費を配分するなどの措置もとりはじめた。70年代に入ってからのこうした動きと並行して、後に共通第一次試験として結実する一斉テストの導入へ向けての動きも胎動し始める。文部省が1972（昭和47）年から『大学入学者選抜実態調査』を毎年公表するようになったことも、こうした一連の動きに関連していたといえよう。

以下にのべるように、この調査によって、推薦入学を採用する大学が増加しつつあることもわかってきた。

かつての進学適性検査や能研テストなど特別な場合をのぞくと、戦後においては、大学入学者選抜に関する公的な実態調査はなかったようであり、少なくとも定期的に公表されるようになったのは初めてのことであった。大学入学者選抜は各大学の自治に属する問題だと考えられていたからなのであろうが、実態が調査されていなかったことは、考えてみれば驚くべきことであった\*。

\*ちなみにいえば、（新制）高校入試に関しては、文部省は『公立高等学校入学者選抜実施状況に関する調査報告書』を早くから定期的に公表してきた。

戦前についてみると、中等諸学校の入学者選抜に関する調査報告は知られていないが、高等諸学校に関しては官立高等学校の『入学者選抜試験報告』の如きが、実業専門学校については『入学志願者入学者ニ関スル諸調査』がほぼ毎年公表されていたし、またこれら官立諸学校は『文部時報』などをとらして毎年入試成績を公表するならわしがあった。戦後については、『進学適性検査結果報告書』が例外的に詳細な分析結果を公表していた（この報告書は、近く

大空社から全冊が復刻される由である)。これら報告書は、学校ごとの志願者・受験者・合格者等の数量面だけでなく、合格者の学力検査の科目別の最高点・最低点・平均点まで公表していた。戦後は、こうしたデータについては大学側は異常な程神経を使って秘匿する傾向が強いが、いわゆる受験産業がこの種のデータを提供していることは周知のところである。

文部省の『大学入学者選抜実態調査』は、主として選抜方法に関する調査で、成績面を調査しているわけではない。

### 推薦入学実施校の増大

『大学入学者選抜実態調査』によると、1973（昭和48）年以降の推薦入学実施学部数の変化は、表1の如くであった。推薦入学を行う学部数の伸びは、国公立大学では緩慢であったが、私立大学では、この調査の始まった1973年当時すでに半数近くになっていた。

推薦入学を行う国立大学の学部は、共通第一



次試験が導入された1979（昭和54）年を境にして急激にふえて75学部、全学部の20%台に達した。とくに夜間部では1977年以来、過半数の学部が推薦入学を併用するようになった。

公立大学で推薦入学を導入した学部は、国立大学のそれより少なく、1983年になってようやく20%台に達したに過ぎなかった。

これに対して私立大学では推薦入学導入が活発で、1975（昭和50）年以降は過半の学部が実施しており、1984（昭和59）年には8割以上の学部が実施している。私立大学では、推薦入学を実施しない学部の方が少数になったわけである。

### 入学者の4分の1に達する私立大学の推薦入学

推薦入学を実施する大学・学部が増加したとはいえ、推薦入学で入学させる人数率は当初はそれ程大きなものではなかった。

しかし、私立大学に限ってみると、推薦入学の方法で入学した学生は、1974年には早くも全体の2割近くになっていた。昼間部・夜間部別に統計がとられるようになった1975年以降についてみると、私立大学では昼間部入学者の2割以上、毎年7万名前後の者が推薦による入学者となっている。推薦入学制度は、学力検査につぐ有力な選抜方法となってきたのである。夜間部では昼間部よりはやや比率が小さいが、80年代前半には全入学者の2割近くの者が推薦で入学している。

国立大学では、推薦入学を実施する学部は増加したが、全入学者中の推薦入学による入学者の比率は、昼間部についてみると、1984年になってようやく2%に達したに過ぎない。国立大学昼間部の推薦入学は、80年代前半まではまだまだいかに足りない状況であり、全学生の約3

表1-(1) 推薦入学実施学部数及び実施率（国立大学）

年	昼間部			夜間部			合計		
	調査回収学部数	実施学部数	実施率(%)	調査回収学部数	実施学部数	実施率(%)	調査回収学部数	実施学部数	実施率(%)
1973	294	13	4	12	4	33	306	17	6
1974	297	23	8	12	4	33	309	27	9
1975	299	30	10	12	5	42	311	35	11
1976	301	33	11	12	5	42	313	38	12
1977	306	40	13	13	7	54	319	47	15
1978	319	45	14	15	8	53	334	53	16
1979	321	64	20	16	11	69	337	75	22
1980	333	69	21	17	12	71	350	81	23
1981	336	73	22	17	13	76	353	86	24
1982	337	74	22	17	13	76	354	87	25
1983	338	78	23	18	14	78	356	92	26
1984	339	85	25	18	13	72	357	98	28

表1-(2) 推薦入学実施学部数及び実施率（公立大学）

年	昼間部			夜間部			合計		
	調査回収学部数	実施学部数	実施率(%)	調査回収学部数	実施学部数	実施率(%)	調査回収学部数	実施学部数	実施率(%)
1973	61	4	7	12	4	33	73	8	11
1974	61	5	8	12	1	8	73	6	8
1975	63	5	8	12	1	8	75	6	8
1976	63	4	6	12	—	—	75	4	5
1977	63	4	6	12	—	—	75	4	5
1978	64	4	6	12	—	—	76	4	5
1979	64	7	11	12	1	8	76	8	11
1980	66	10	15	12	1	8	78	11	14
1981	67	12	18	12	1	8	79	13	16
1982	67	13	19	12	2	17	79	15	19
1983	67	14	21	12	2	17	79	16	20
1984	67	16	24	12	2	17	79	18	23

表1-(3) 推薦入学実施学部数及び実施率（私立大学）

年	昼間部			夜間部			合計		
	調査回収学部数	実施学部数	実施率(%)	調査回収学部数	実施学部数	実施率(%)	調査回収学部数	実施学部数	実施率(%)
1973	541	265	49	106	36	34	647	301	47
1974	552	271	49	106	39	37	658	310	47
1975	558	330	59	102	47	46	660	377	57
1976	558	333	60	98	50	51	656	383	58
1977	578	351	61	104	54	52	682	405	59
1978	582	350	60	103	44	43	685	394	58
1979	592	366	62	102	51	50	694	417	60
1980	591	412	70	102	62	61	693	474	68
1981	599	413	72	101	63	62	700	497	71
1982	610	445	73	101	67	66	711	512	72
1983	615	486	79	99	70	71	714	556	78
1984	624	522	84	99	73	74	723	595	82

表2-(1) 推薦入学の状況 (国立大学)

年 度	昼 間 部			夜 間 部		
	全入学者	うち 推薦入学	比 率 (%)	全入学者	うち 推薦入学	比 率 (%)
1974 ( S. 49)	73,190	495	0.7	←昼・夜の区分なし		
1975 ( 50)	74,338	605	0.8	1,091	105	9.6
1976 ( 51)	76,357	705	0.9	1,218	101	8.3
1977 ( 52)	77,154	793	1.0	1,169	183	15.7
1978 ( 53)	78,751	935	1.2	1,486	233	15.7
1979 ( 54)	80,926	1,089	1.3	1,607	342	21.3
1980 ( 55)	83,097	1,219	1.5	1,634	375	22.9
1981 ( 56)	83,762	1,347	1.6	1,660	427	25.7
1982 ( 57)	86,348	1,427	1.7	1,662	411	24.7
1983 ( 58)	85,887	1,516	1.8	1,903	513	27.0
1984 ( 59)	85,682	1,724	2.0	1,887	445	23.6

表2-(2) 推薦入学の状況 (公立大学)

年 度	昼 間 部			夜 間 部		
	全入学者	うち 推薦入学	比 率 (%)	全入学者	うち 推薦入学	比 率 (%)
1974 ( S. 49)	10,434	252	2.4	←昼・夜の区分なし		
1975 ( 50)	9,994	254	2.5	679	9	1.3
1976 ( 51)	10,479	248	2.4	646	—	—
1977 ( 52)	10,047	275	2.7	671	—	—
1978 ( 53)	10,137	287	2.8	660	—	—
1979 ( 54)	9,920	306	3.1	658	32	4.9
1980 ( 55)	10,190	369	3.6	658	38	5.8
1981 ( 56)	10,143	390	3.8	662	32	4.8
1982 ( 57)	11,151	441	4.0	647	52	8.0
1983 ( 58)	10,564	478	4.5	639	53	8.3
1984 ( 59)	10,488	497	4.7	626	50	8.0

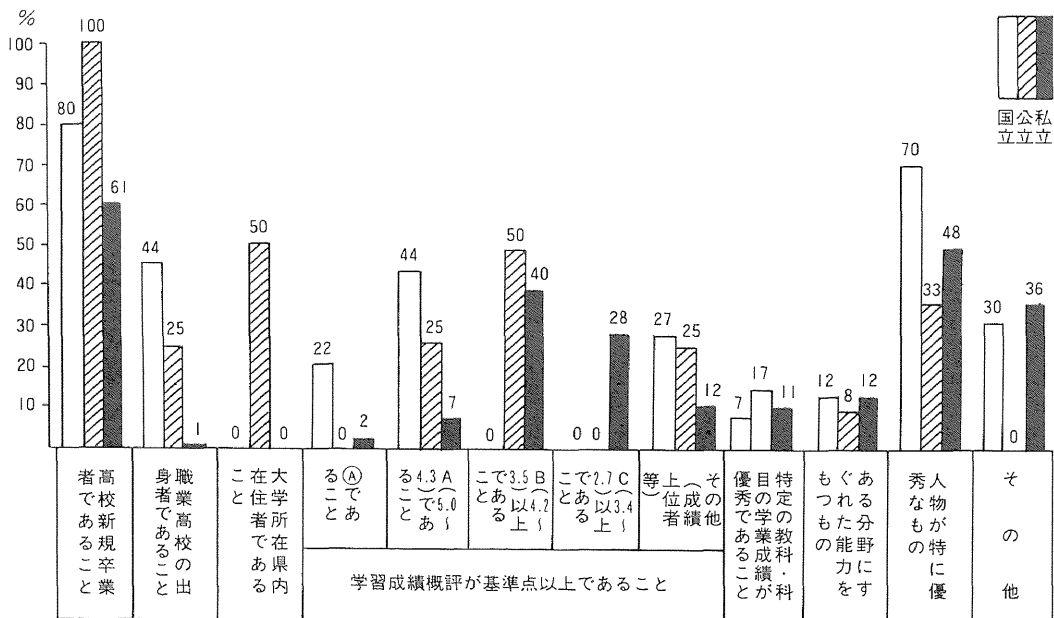
表2-(3) 推薦入学の状況 (私立大学)

年 度	昼 間 部			夜 間 部		
	全入学者	うち 推薦入学	比 率 (%)	全入学者	うち 推薦入学	比 率 (%)
1974 ( S. 49)	323,904	62,317	19.2	←昼・夜の区分なし		
1975 ( 50)	306,352	72,776	23.8	31,438	5,177	16.5
1976 ( 51)	333,600	74,926	22.5	29,698	4,812	16.2
1977 ( 52)	310,508	78,925	25.4	28,863	4,782	16.6
1978 ( 53)	306,274	73,314	23.9	28,410	4,301	15.1
1979 ( 54)	287,617	69,772	24.3	26,907	4,257	15.8
1980 ( 55)	291,290	74,608	25.6	25,568	4,243	16.6
1981 ( 56)	291,027	76,304	26.2	25,982	4,373	17.0
1982 ( 57)	317,037	77,015	24.3	26,714	4,910	18.4
1983 ( 58)	295,119	81,305	27.5	26,346	5,132	19.5
1984 ( 59)	291,194	86,059	29.6	25,346	5,049	19.4

表3 推薦の要件(1) (1981年度)

区分	推薦入学 実施学部 数	(ア) 推薦を求める高等学校					(イ) 高等学校からの推薦者の数	
		指定しない ①	指定する			制限しない ⑤	制限する ⑥	
			附属高校等 ②	過去の入学 実績 ③	その他 ④			
大学 (併)	国立	73	55 (75.3)			21 (28.8)	42 (57.5)	31 (42.5)
	公立	12	3 (25.0)	1 (8.3)		8 (66.7)	2 (16.7)	11 (91.7)
	私立	434	260 (59.9)	132 (30.4)	71 (16.4)	48 (11.1)	263 (60.6)	167 (38.5)
	計	519	318 (61.3)	133 (25.6)	71 (13.7)	77 (14.8)	307 (59.2)	209 (40.3)
大学 (徹)	国立	13	12 (92.3)			1 (7.7)	9 (69.2)	4 (30.8)
	公立	1	1(100.0)				1(100.0)	
	私立	63	45 (71.4)	20 (31.7)	2 (3.2)	1 (1.6)	49 (77.6)	16 (25.4)
	計	77	58 (75.3)	20 (26.0)	2 (2.6)	2 (2.6)	59 (76.6)	20 (26.0)
合計		596	376 (63.1)	153 (25.7)	73 (12.2)	79 (13.3)	366 (61.4)	229 (38.4)

図 推薦の要件(2) (1981年度)



分の1を推薦で入学させている筑波大学だけが例外であった。ただし、同じ国立大学でも夜間部の事情は違う。国立大学夜間部も、共通一次試験導入以前は推薦入学による入学者は10%台に達したに過ぎなかったが、共通一次導入後は

20%台となった。国立大学夜間部の全入学者の約4分の1は推薦入学によっているわけである。しかし、国立大学夜間部入学者は何といても絶対数が少なく、私立大学夜間部入学者の1割にも満たない。

表には掲げてないが、国立大学夜間部の推薦入学者で注目されるのは、職業高校出身者の比率が高いことである。たとえば、1979年の推薦入学者342名中192名（56%）、1984年の445名中177名（39.8%）は職業高校出身者であった。

公立大学の推薦入学による入学者は、全入学者の5%に満たないが、それでもこの比率は国立大学よりは高い。ただし公立大学の夜間部の推薦入学者の全入学者中の比率は、国立大学と違って1割に満たない。

### 多様化している推薦・選抜基準

推薦入学に関して注目されることは、大学側が要求する推薦の要件が多様化していることである。1981（昭和56）年度の昼間部の場合を、図および表3に示す。

新規高卒者で学業成績優秀、人物の優れていること、という3条件を要求するかつての推薦入学のイメージは、くずれつつあることがわかる。国立大学には旧来の推薦基準をもとめる大学が多いが、その国立大学でも職業高校出身者と指定する学部が4割を越え、学業成績についても幅をもたせている学部の増えていることが注目される。私立大学の場合には、要求する学業成績にかなりの幅がある。

ひとつの高校から推薦し得る人数に制限を設けない大学が、国立大学、私立大学で6割にも達していることも注目される。

推薦入学の際、判定に活用される資料も多様化してきた。調査書が活用されるのはもちろんであるが、面接を併用する学部は、国立大学で90%、公立大学75%、私立大学79%に達している（1981年度、昼間部につき）。小論文テストを併用する学部も、国立大学66%、公立大学75%、私立大学34%となっている（同上）。このほか、

簡単な学力検査を併用する大学も国立大学7%、公立大学17%、私立大学40%となっている（同上）。このような傾向は、夜間学部の場合にもみられる。推薦入学という選抜方法は、いずれにしても、大学側には手間のかかる方法である。

なお、推薦入学の場合に小論文テストや面接を併用する大学が意外に多いのは、文部省が1970（昭和45）年度の『大学入学者選抜実施要項』から、推薦入学すなわち「学力の検査を課さないで調査書を主な資料として」合否を判定する場合には、「面接を行ない、また小論文を課すことが望ましい」とするようになったからである。

推薦入学は、ただ一回の学力検査の成績よりも、3年間にわたって指導してきた高校側の評価・推薦を信頼すること、すなわち、高等学校と大学との間に信頼関係があることを前提として成立する。その意味で、推薦入学による選抜資料として最も重視される高校側の調査書に関して不祥事が聞かれることが少ないことは喜ばしい。いわゆる公平原則にしばられる度合の強い国公立大学ですら推薦入学を実施する大学・学部が増加していることは、とかくせちがらいこの世で、高校～大学間に信頼関係が成立していることを示唆しているといつてよいであろう。

実態に立ち入れば、推薦入学は、高校側には進学先を早く決めたいという思惑があり、大学側にはさきに優秀な学生を確保したいという欲求があつて機能していることは否定できない。このため、青田買いはやめるべきだという声も出はじめている。増大してきた推薦入学をどう定着させるかは、現代の大学入学者選抜問題の重要な問題の一つとなっているといつてよいであろう。